

令和4年6月25日 練馬区土砂災害訓練

防災情報の利活用について

東京管区气象台 要配慮者対策係長

1 . その土地の危険を知る

ハザードマップを確認。

2 . 大雨が近づいたら

大雨に伴う災害の種類。情報の確認方法。

3 . 避難

安全が確保されるまでは避難。

1 . その土地の危険を知る

ハザードマップを確認。

2 . 大雨が近づいたら

大雨に伴う災害の種類。情報の確認方法。

3 . 避難

安全が確保されるまでは避難。

ハザードマップで**危険な場所**と

避難場所を確認



ハザードマップ



市町村ホームページ



過去の災害







日頃からどのような危険があるのか確認しましょう

練馬区のハザードマップ



-  土砂災害警戒区域
-  土砂災害特別警戒区域

浸水深

-  5.0m以上
-  3.0m~5.0m未満
-  2.0m~3.0m未満
-  1.0m~2.0m未満
-  0.5m~1.0m未満
-  0.1m~0.5m未満

1 . その土地の危険を知る

ハザードマップを確認。

2 . 大雨が近づいたら

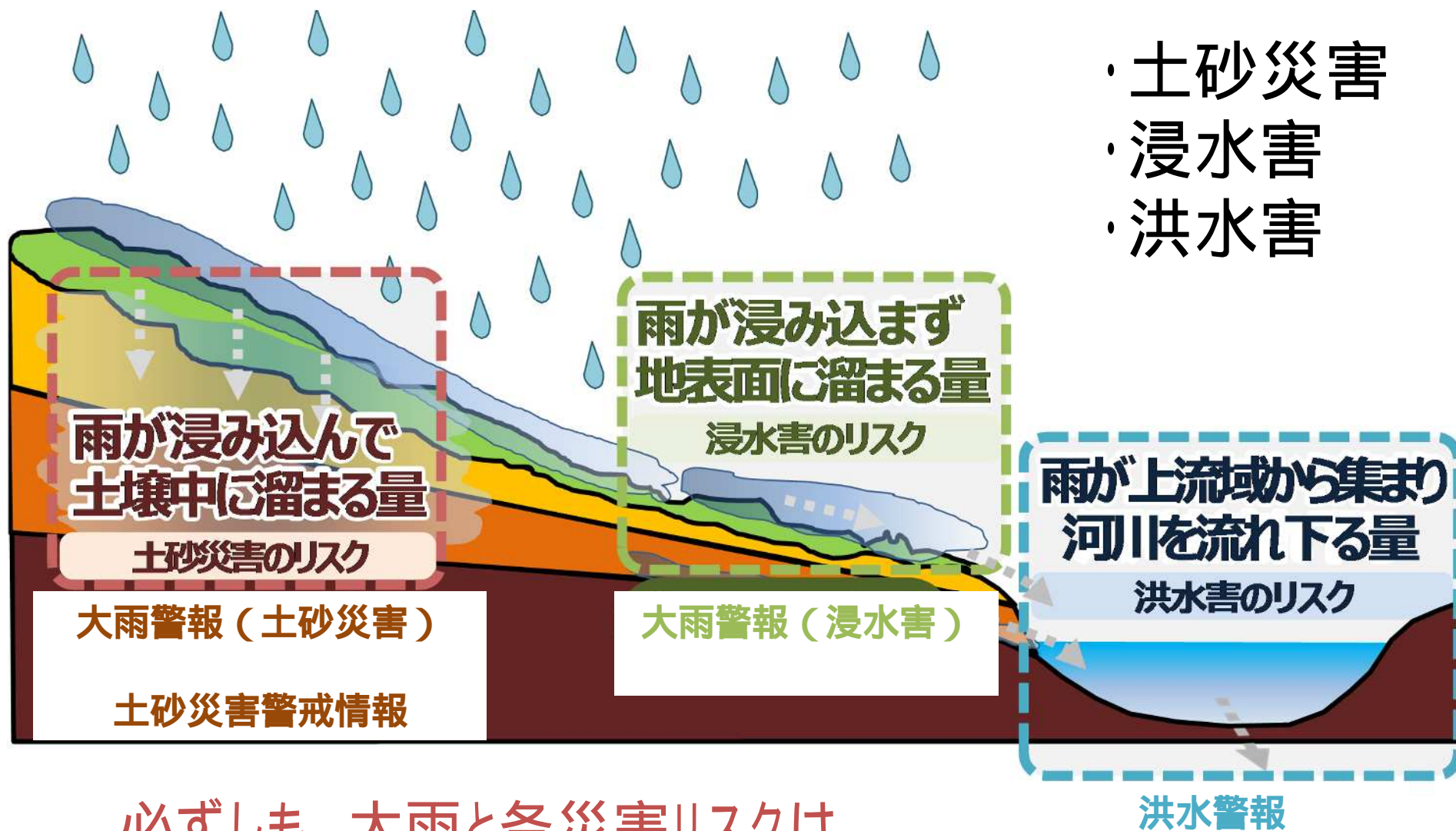
大雨に伴う災害の種類。情報の確認方法。

3 . 避難

安全が確保されるまでは避難。

大雨に伴う災害の種類としくみ

- ・土砂災害
- ・浸水害
- ・洪水害

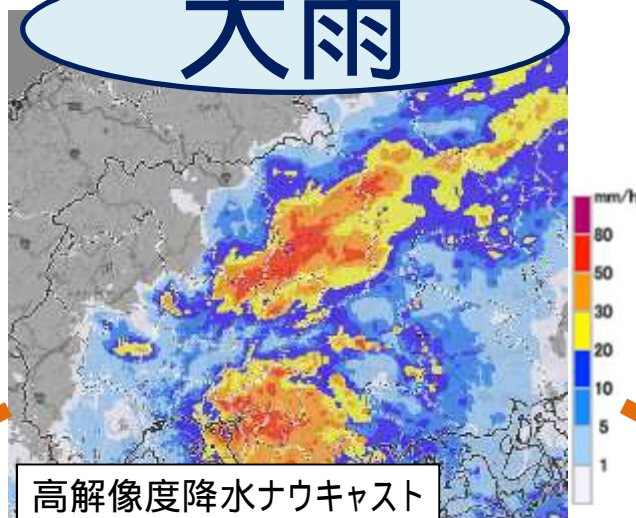


必ずしも、大雨と各災害リスクは
一致するわけではない

キキクル（危険度分布とは）

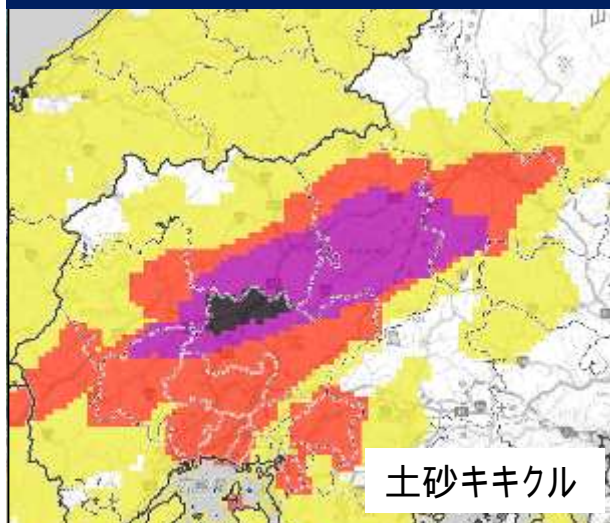
大雨の降っている場所は
気象レーダーで把握可能
しかし、災害の発生する
場所・時間とは、
必ずしも一致しない

大雨



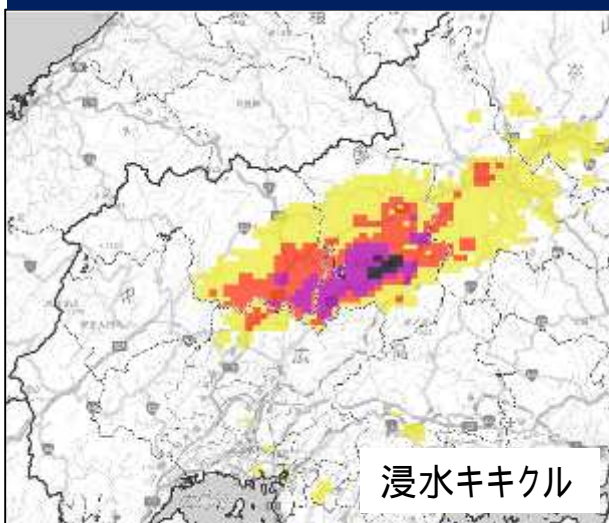
警報等と合わせ、どこで
危険度が高まっているか
視覚的に確認できるよう
キキクルを提供。

土砂災害



大雨警報（土砂災害）の危険度分布

浸水害



大雨警報（浸水害）の危険度分布

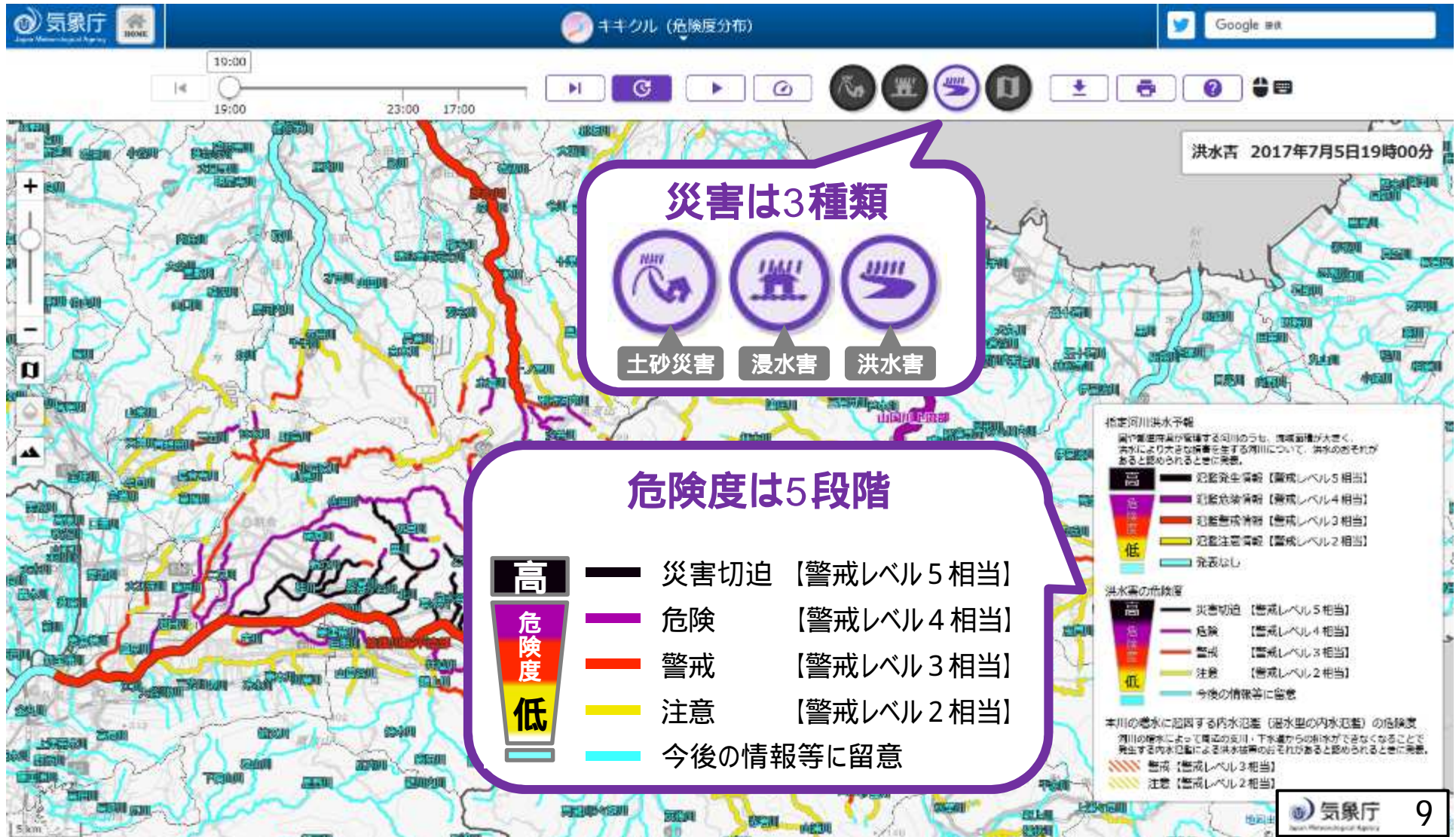
洪水災害



洪水警報の危険度分布

キキクル（危険度分布とは）

- 雨による**災害の危険度**を地図上に**リアルタイム表示**（気象庁ホームページ上で**10分ごと**に更新）
- **土砂災害・浸水害・洪水害**それぞれの危険度を**5段階**に色分けして表示



キキクルの「黒」の新設と「うす紫」と「濃い紫」の統合

令和4年6月30日から

警戒レベル4に相当するキキクル（危険度分布）は**紫**です

キキクルの色	警戒レベル
黒 災害切迫	5相当
紫 危険	4相当
赤 警戒	3相当
黄色 注意	2相当
白(水色) 今後の情報等に留意	-

これまでのキキクル	
これまでのキキクルの色	警戒レベル
濃い紫	-
うす紫	4相当
赤	3相当
黄色	2相当
白(水色)	-

特別警報基準値
超過を「黒」で表示

警戒レベル4
の「紫」と一致



**「紫」が出現した段階で
速やかに安全な場所に
避難する判断を!**



九州北部豪雨における赤谷川の被害状況
(平成29年7月7日国土地理院撮影)

キキクルにアクセスするには

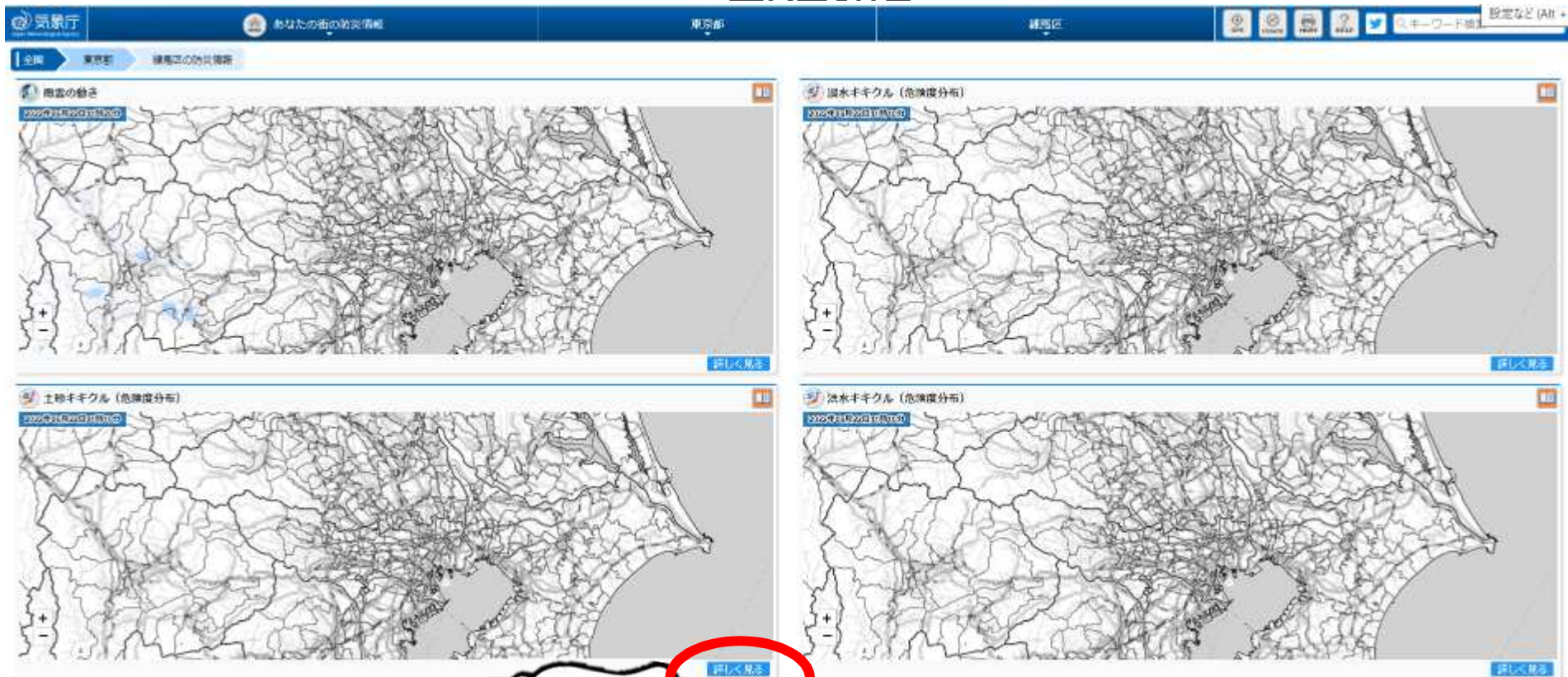


キキクルの活用

https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=rain_level&area_type=class20s&area_code=1312000



QRコードはこちら



キキクルの活用



土砂災害 浸水害 洪水害 ハザードマップ重ね合わせ

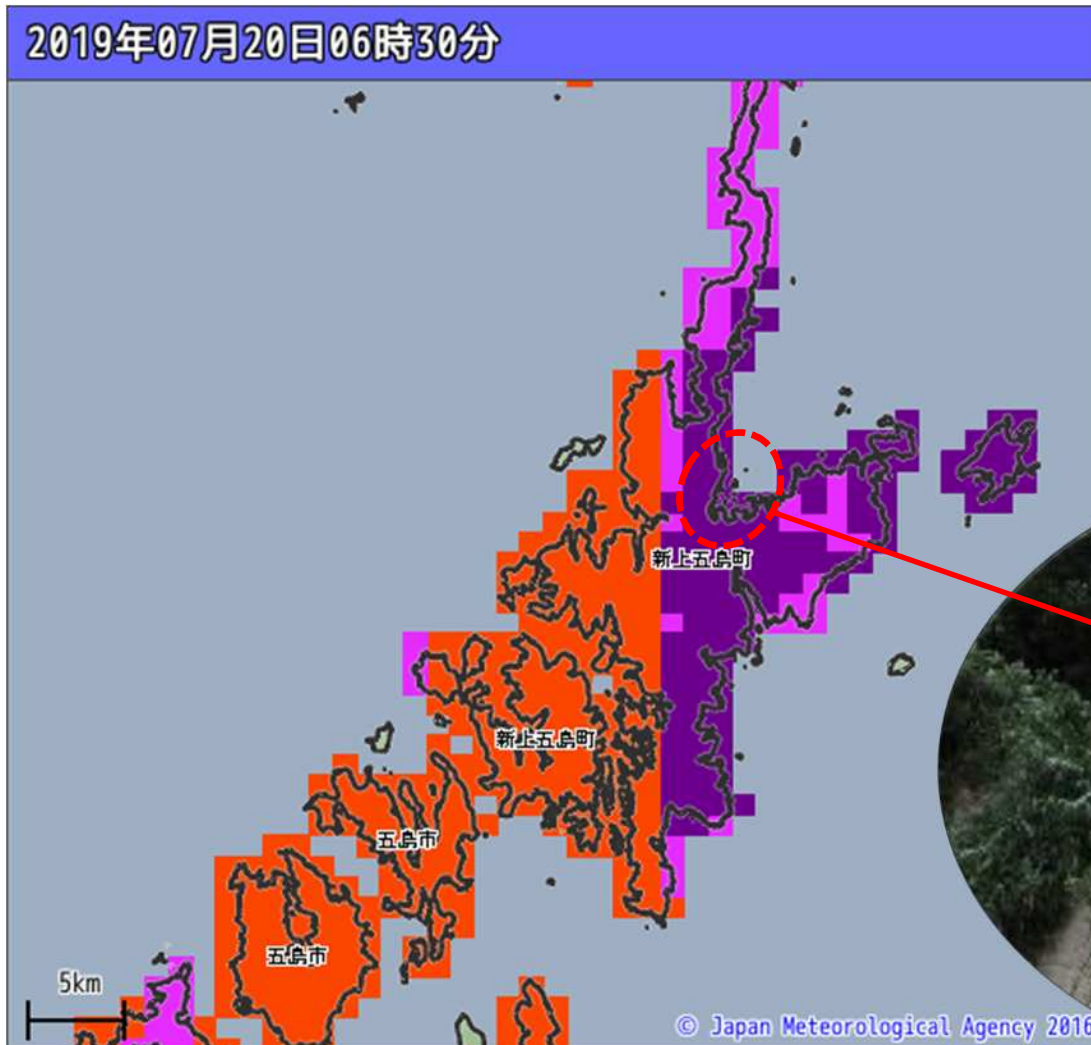


注：凡例は現在のもの
6月30日から変更予定

キキクルの例

土砂災害

(令和元年7月20日 新上五島町)



注：配色は当時のもの
6月30日から変更予定

紫は
災害がすでに発生
していてもおかしくない



(写真：気象庁)

キキクルの通知サービスについて

- 土砂災害や洪水等からの自主的な避難の判断に役立てていただくために、危険度が高まったときにメールやスマホアプリでお知らせするプッシュ型の通知サービス¹を実施しております。
- この通知は市町村からの避難情報よりも先に届く場合があります。このため、通知を受信したときには、市町村からの避難情報を確認するとともに、避難情報が発令されていなくても、市町村内のどこで危険度が高まっているかを「キキクル（危険度分布）」の地図や河川の水位情報等で確認することで、自主的な避難の判断^{2・3}に活用いただけます。



- 1 住民の主体的な避難の判断を支援する取組の一環として、気象庁の協力のもとで、以下のリンク先の5つの事業者が実施するものです。
(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/ame_push.html)。
- 2 離れた場所に暮らしている家族に避難を呼びかけることにも活用いただくことができます。
- 3 避難にあたっては、あらかじめ指定された避難場所へ向かうことにこだわらず、川や崖から少しでも離れた、近くの頑丈な建物の上層階に避難するなど、自らの判断でその時点で最善の安全確保行動をとることが重要です。

1 . その土地の危険を知る

ハザードマップを確認。

2 . 大雨が近づいたら

大雨に伴う災害の種類。情報の確認方法。


3 . 避難

安全が確保されるまでは避難。

5段階の警戒レベル

【警戒レベル4】全員避難
【警戒レベル3】高齢者等避難

警戒 レベル	住民がとるべき行動	避難情報等
5	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保
4	全員避難	避難指示
3	高齢者等は避難	高齢者等避難
2	避難行動の確認	注意報
1	災害への心構えを高める	早期注意情報 (警報級の可能性)



危険度

高

低

5段階の警戒レベルと防災気象情報

警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報	キキクル (危険度分布)	相当する警戒レベル			
5	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨特別警報	災害切迫	氾濫発生情報	5相当		
<警戒レベル4までに必ず避難！>								
4	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	土砂災害警戒情報	高潮警報	高潮特別警報	危険	氾濫危険情報	4相当
3	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	※ 大雨警報 洪水警報	高潮警報に切り替える可能性が高い注意報	警戒	氾濫警戒情報	3相当	
2	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	大雨警報に切り替える可能性が高い 注意報 大雨注意報 洪水注意報	高潮注意報	注意	氾濫注意情報	2相当	
1	災害への心構えを高める	・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	早期注意情報 (警報級の可能性)					

夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

警戒レベル3

相当情報：大雨警報（土砂災害）発表



高齢者等避難が発令されたら
高齢者等は早めの避難



警戒レベル4

相当情報：土砂災害警戒情報発表



避難指示が発令されたら
安全な場所へ避難



警戒レベル5

相当情報：「大雨特別警報」発表

「緊急安全確保」発令



避難場所への移動は手遅れのおそれ、少しでも命が助かる行動を取る。

5段階の警戒レベル

警戒レベル4の段階で
避難を終える



レベル	市民がとるべき行動	避難情報等
5	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保
4	全員避難	避難指示
3	高齢者等は避難	高齢者等避難
2	避難行動の確認	注意報
1	災害への心構えを高める	早期注意情報 (警報級の可能性)

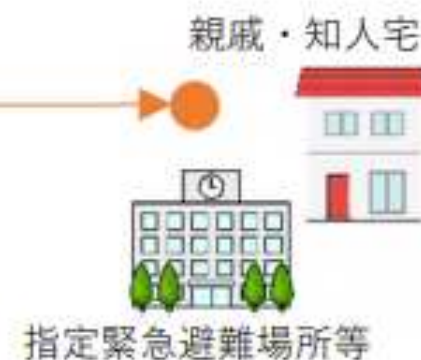
土砂災害からの避難（基本）

土砂災害の危険がない場所へ移動する

土砂災害は立ち退き避難が原則



※土砂災害は立ち退き避難が原則



緊急安全確保（避難が遅れた時）

避難し遅れたために、災害が発生・切迫し、立退き避難を安全にできない可能性がある状況に至ってしまったと考えられる場合に、**命の危険から身の安全を可能な限り確保するため**、その時点でいる場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動等すること。

近隣の少しでも高い建物に移動



自宅の少しでも高い場所に移動



崖から離れた部屋に移動



【雨が止んでも危険性は高いまま】
避難指示・高齢者等避難が解除されるまでは避難の継続をお願いします。